



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2020年(令和2年)1月25日号 No.1815

目次

■ 2020年代のロシア・ユーラシア地域秩序を占う(下)服部 倫卓 1
■ ロシアでミシュスチン新内閣が成立中馬 瑞貴 18
■ 『ロシアNIS調査月報』2020年2月号のご紹介 22
■ エトセトラ 23
「キルギス企業ミニ・プレゼンテーション」のご案内/23	
■ トピックス 23
日建設計がモスクワ再開発を担当/23	
ウラジオストクに観光警察を新設/23	

2020年代のロシア・ユーラシア地域秩序を占う(下)

ロシアNIS経済研究所 副所長

服部 倫卓

はじめに

前回に引き続き、2020年の年頭に当たって、当会の事業対象国であるロシア・NIS諸国の政治・経済・国際関係の動向を概観するレポートをお届けする(図表および注の番号は、前回からの通し番号となっている)。

前編では欧州系の国を論じたので、後編では中央アジア諸国および南コーカサス諸国について論じる。なお、前編の配信後に、ロシアでV.プーチン大統領が改憲を提案するとともに、D.メドヴェージェフ内閣が総辞職、M.ミシュスチン新内閣が発足するという大きな出来事があった。この動きについては、筆者の個人的な見解を他のところに寄稿しているので¹⁴⁾、そちらを参照していただきたい。また、本速報掲載の「ロシアでミシュスチン新内閣が成立」もあわせて参照されたい。

Kazakhexitもささやかれるカザフスタン

2019年3月にN.ナザルバエフ氏がカザフスタン大統領の座から退くことを発表したのは、同国のみならず、2019年のロシア・ユーラシア圏のトップニュースと言うべき大きな出来事であった。もっとも、ナザルバエフが初代大統領、政権与党「ヌル・オタン」党首、国家安全保障会議議長として今後も実質的な最高権力者に留まることは、周知のとおりである。この問題については、当会の刊行物ですでに情報を発信しているので¹⁵⁾割愛し、ここでは地域の国際関係に及ぼすインプリケーションについてのみ触れる。